

インターバンクの声（2015年4月14日）

4月の各国経済指標発表や政治イベント予定を示すカレンダーを見直すと、昨日に限らずこの後の月曜日も大きな予定がある日はほとんどない。そうした背景もあって、昨日の海外市場も火曜日に発表される米小売売上高結果を想定した市場の反応シミュレーションであったり、貿易収支の結果が芳しくなかったことで、水曜日に発表されるGDPも低い伸び率になりそうな中国経済の先行きに思いを巡らせ、足許の相場変化は最低限に留まりそうな雰囲気では始まっていた。ところが、相場は得てして何の予定もない昨日のような日ほど想定外のニュースが飛び込んでくるもの。ニューヨーク市場が始まる頃、日本のBS放送の番組で内閣官房参与の浜田・米エール大学名誉教授が「120円はかなり円安、105円くらいが妥当」との見方を示し、程なく市場が反応して60銭ほどドル売りが進んだ。購買力平価からの見方との注釈がついていることで、直ぐに相場も落ちついたが、改めて120円を遥かに超える円安水準に対して警戒感を強めることになったかも知れない。もう一つは、フィナンシャル・タイムズ紙の「ギリシャが債権団と月内に合意出来なければ、債務不履行（デフォルト）に向けた準備を行う」との記事。ユーロの反応は、今一つはっきりしなかったが、ギリシャ問題もいよいよ佳境に近づいている様子だ。ドル円もユーロもそろそろボックス相場を抜け出す頃かも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。